

|     |  |
|-----|--|
| 種 別 | 有形文化財  |
| 名 称 | くさかるでんきてつどう でんききかんしゃ がた<br>草軽電気鉄道・電気機関車（デキ12形） |

草軽電気鉄道・電気機関車は、デキ12形機関車といい、アメリカのジェフェリー社で大正9年（1920）に製造された、ハンドブレーキ常用、非常用電気ブレーキ付きの鉱山用トロッコを改造したものである。長いパンタグラフとL字型の車体の特徴的な外観から、「カブトムシ」という愛称で地域に親しまれた。

草軽電気鉄道は、当時の政府が地方の鉄道整備のために交付した「軽便鉄道法」や「軽便鉄道補助法」に後押しされ、大正4年（1915）から「草津軽便鉄道」として営業を開始し、大正13年（1924）に「草津電気鉄道株式会社」へ称号変更した。大正15年（1926）には、新軽井沢から草津温泉間55.5kmの電化が完成し、避暑客や地域住民の交通手段としてだけでなく、生活物資や硫黄・石炭・木材などの輸送としても活躍した。浅間山麓では農林鉱業が盛んであり、なかでも硫黄は主要な貨物であった。

避暑客や地域住民に親しまれながら、貨物輸送など地域社会の雇用促進などにも大きく貢献していたが、昭和37年（1962）12月に惜しまれながらも路線廃止となる。

廃線後、昭和39年（1964）に車両は町に寄贈され、中央公民館庭などでの展示を経て、現在の旧軽井沢駅舎記念館前に設置された。

デキ12形機関車として現存するものは駅舎記念館前に保存されている車両のみであり、地域の交通網の発展を語る重要な資料である。

軽井沢町の避暑地としての歴史や交通史を後世に継承していくため、保存すべき重要な文化財であると考えます。

